「８０２０運動」

愛知県歯科医師会
専務理事　坂井　　剛

今、日本は21世紀の高齢社会に備えて大きな変革を迫られています。消費税の導入や年金の見直し、医療法や老健法の改正等がその例です。県歯が昨年スタートさせた「8020運動」もその路線に沿ったものです。幸いその後、厚生省の“成人歯科保健対策検討委員会の中間報告”でも同様の運動が提言され、平成２年度には全国的な事業として、「8020運動」が展開される事になりました。人生80年時代、20本の自分の歯があれば義歯がなくても十分噛めるわけですから、何とか歯の寿命を延して健康で活力ある80才を迎えようというのがその主旨です。今年は県下で約10万人の80才以上の方から241人の歯の健康優良者（8020達成者）がみつかりました。その内91人の方が会館で行った表彰式に参加されましたが、皆さん付添も必要としない元気な方ばかりでした。

表１は昭和62年の厚生省歯科疾患実態調査の結果と「8020運動」の各年代の目標値とを対比させたものです。現状80才で４本の残存歯数と8020の間の落差があまりにも大きく夢の様な話にみえるかもしれませんが、21世紀を通じてのスローガンと考えれば、いづれ達成できる目標です。

我々は最近の20年間、母子保健や学校保健に懸命に取り組み、それなりの成果を挙げてきました。それに比べて成人歯科保健についてはほんの僅かしかやっていません。高齢化社会に向って、まず我々自身が意識改革をしなければなりませんし、国民にも歯を大切にする意識を持ってもらうよう息の長い啓蒙活動をする必要があります。

今、日本社会のあらゆる分野で高齢社会への対応が進められています。我々も又、公衆衛生活動や自分の診療所で「8020運動」を進めてみようではありませんか。まずは40才で26本、50才で24本の中間目標をクリアーする事です。必ずやこの運動は国民の共感を得て、健全な高齢化社会を目指す、21世紀日本のリード役になれるでしょう。

もう一歩踏みこんで考えてみると、健康な高齢社会を支えるのは今の子供達です。歯科界は長年子供達の健康を守ることに力を注いできました。老人を大切にするあまりに子供の事を忘れないように注意したいものです。その意味で次になすべき事は「六才臼歯の育成運動」です。

これから開業される先生方にお願いしたい事は“大きな社会の動向の中で自分の仕事をどこに位置づけるか”この事を確認しつつ臨床に励んでいただく事です。21世紀は先生方の時代です。本会も又、誤りのない対応をしていきたいと考えています。供に手をたずさえて進んでいきましょう。

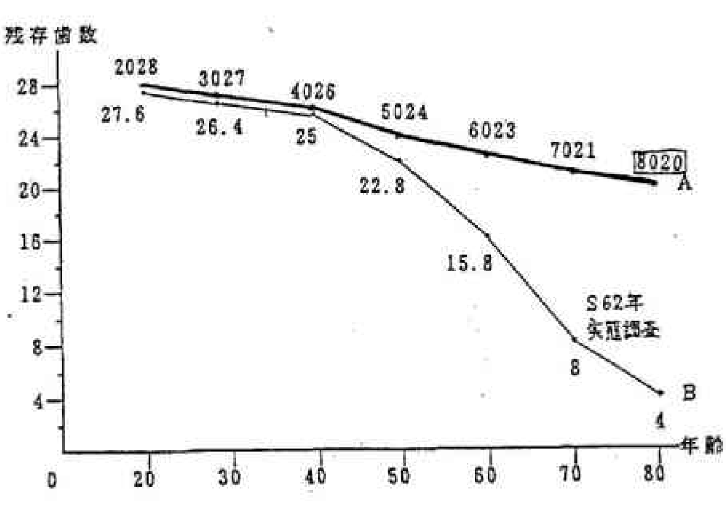

表１　年代別残存歯数　目標数：A　現状：B